

令和元年度 第2回 総合教育会議 会議録

開催日 令和2年2月20日（木）

場 所 武豊町役場 第1会議室

出席者の氏名

町 長 舩山 芳輝
教 育 長 加藤 雅也
教育長職務代理者 出口 智康
教 育 委 員 小藤 省吾
総 務 部 長 木村 育夫
企画部次長兼企画政策課長 近藤 千秋
学 校 教 育 課 長 森田 良孝
スポーツ課長兼総合体育館長 田中 孝往
指 導 主 事 木下 稔章

教 育 委 員 久田 徳彦
教 育 委 員 永田 淑子
企 画 部 長 山田 晴市
教 育 部 長 木村 孝士
生涯教育課長 伊藤誠一郎
学校教育課長補佐 藤井 千絵
指 導 主 事 稲垣 勉

：欠席者

1. 開会 午前10時30分

（教育部長） みなさま、こんにちは。本日はご多用の中、ご出席をいただき厚くお礼申し上げます。定刻になりましたので、ただ今から令和元年度第2回総合教育会議を始めさせていただきます。

私は、本日の進行を務めます教育部長の木村です。よろしくお願いします。本日の会議につきましては、議事録を作成するため、録音をさせていただきます。議事録につきましては、後日町ホームページにて公表をさせていただきますのでご了解ください。また、本日の進行につきましては、お手元の次第に沿って進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

2. あいさつ

（教育部長） それでは、はじめに本会の招集者、舩山芳輝町長があいさつを申し上げます。

（町 長） みなさんこんにちは。武豊町長の舩山芳輝です。

日頃は武豊町の教育行政の推進に向け、様々な方面でご尽力いただいていることに、感謝を申し上げます。また、本日は大変ご多用の中、令和元年度第2回武豊町総合教育会議にご出席いただき、重ねてお礼申し上げます。

さて、ここ最近、本町におきましても大きな話題となっております、ICTの環境整備であります。文部科学省では、「子どもたち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けて～令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境～」と題した、いわゆる「GIGAスクール構想」が打ち出されております。Society5.0時代に生きる子どもたちへの教育として、子どもたちの可能性を広げる、新しい形での教育の必要性がうたわれております。また、この構想の考えの一つには、ICTの運用による、授業準備、成績処理などの教員の負担軽減もあり、学校における働き方改革にもつながるものであります。

これら、ハード・ソフトの両面からの教育改革を充実させることにより、武豊町の

新しい教育の形を考えていただきたいと思います。

本日の会では、協議事項として、来年度の「学校教育の指針」および「重点施策」の提案がされます。さらには、先ほど申し上げました「ICT環境整備」の案が提示され、今後の小中学校における教育環境の整備について協議をしていただきます。これからの時代を担う児童生徒を育てるよりよい方向性について積極的にご意見をいただき、武豊の教育の方針を検討していただきたいと思います。

最後になりますが、本日出席のみなさまには、それぞれのお立場から多くのご意見をいただきますようお願いいたしまして、私からのあいさつとさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

(教育部長) 次に、総合教育会議にあたり、加藤雅也教育長より、一言おねがいします。

(教育長) みなさんこんにちは。教育長の加藤雅也です。本日は、令和元年度第2回の総合教育会議を開催していただきました。誠にありがとうございます。前回の総合教育会議では、教職員の働き方改革に向けた武豊町の取組を協議させていただきました。その際、自動音声による電話対応であるとか、夏季休業中の学校閉校日などの導入についての話題が出されました。導入当初は、不便になるのではないかとというご意見などをいただくのではないかと考えておりましたが、保護者や地域の方からのご理解をいただき、円滑に進めることができしております。こういった働き方改革についてのご理解も進んでいる昨今ではないかと思っております。

さて、本日は、令和2年度学校教育の指針とGIGAスクール構想について議題としていただきました。昨今、国からの通達が学校現場に多く届く中で、教育委員会としましては、武豊の子どもたちの実態を十分踏まえた上で、着実に教育施策を進めていく所存であります。

町長におかれましては、学校に何度となく足を運んでいただき、現場重視の視点で指示をいただいております。本当に感謝申し上げます。本日は、様々なお立場からご意見を頂戴し、これからの武豊の教育がさらに充実・発展するよう教育委員会も努力してまいります。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(教育部長) 本会議の出席者の確認につきましては、次第裏面にあります出席者名簿及び座席表をもって代えさせていただきます。

3. 報告事項

(教育部長) それでは、まず始めに報告事項をお願いします。

要項には、報告事項がありませんが、事務局、何かございませんか。

(指導主事) ありません。

(教育部長) それでは協議に移ります。協議の進行につきましては、設置要綱にあります通り、本会議の招集者でもあります初山町長にお願いいたします。

4. 協議事項

(町長) それでは、協議に入ります。本日の協議事項は、次第にありますように、「令和2年度学校教育の指針・重点施策について」と『GIGAスクール構想』によるICT教育の充実について」の2点です。

はじめに、「令和2年度学校教育の指針・重点施策について」、事務局からの説明をお願いします。

(指導主事) 只今から、1～3ページにあります「学校教育の指針」「学校教育の重点施策」を提案させていただきます。文中にある波線の部分は、来年度、特に重点として取り組む内容となります。また、昨年度からの変更部分及び新規追加分の詳細につきましては、4ページ、5ページにあります「新旧対照表」にまとめさせていただきましたので、適時ご覧ください。

それでははじめに、1ページ・2ページにあります、「令和2年度の学校教育の指針」をご覧ください。基本的には、今年度のものを発展・進化させることを基本として策定を行いました。「1 学校教育の目標」「2 求める子ども像」「3 求める学校像」については、今年度からの変更はありません。

また、来年度をもって、第5次武豊町総合計画に沿った学校教育の取組が締めくくりにとなります。第6次武豊町総合計画につなげていくためにも、これまでの武豊町の教育を振り返るとともに、新たな時代に向けた教育が展望できるよう、進めてまいりたいと思います。

続きまして、4の「重点努力目標」をご覧ください。どれも大切な内容ばかりではございますが、ここでは特に、「GIGAスクール構想」に基づいた教育環境の整備、不登校児童生徒の社会的自立を目指した組織的支援、さらに、小中学校間のつながりを意識した特別支援教育の取組について説明させていただきます。

2ページ(1)の④にありますように、これまでに取り組んできた特別支援教育の取組について、小中学校間の連続性を意識した取組の内容や指導方法について共有を図っていきたいと考えています。今年度から5か年計画で始まった、「愛知つながりプラン2023」に関連して、特別支援教育の充実が求められております。小中学校のつながりをさらに密にすることで、指導のギャップが生じないようにし、児童生徒および保護者への丁寧な指導を進めていききたいと思います。

また、2ページ(2)の①にありますように、「GIGAスクール構想」に基づいて、ICT教育における整備が進んでまいります。小学校では、来年度からプログラミング教育が始まることもあり、ICTの環境整備とともに、学習指導要領に沿った指導内容につきましても、研修等を通して、指導者の共通理解を図っていききたいと思います。

さらに、(3)の④にありますように、不登校児童生徒の自立に向けた支援を充実していききたいと思います。本年度導入していただいた、スクールソーシャルワーカーは、各小中学校において機能し、虐待の疑いや生活の不安定、登校渋りなどが見られる児童生徒を適切に見立てるとともに、子育て支援課と密に連携を図り、児童相談所や福祉機関など、必要な機関への円滑な支援につなげることができました。来年度は、不登校児童生徒に対するスクールソーシャルワーカーの見立てのもので、適応指導教室やスクールサポーター、スクールカウンセラーのつながりを円滑にし、適切な支援につなげていききたいと考えています。

続いて、3ページの「重点施策(しさく)」をご覧ください。この図は、先ほど説明をさせていただいた指針をもとに、具体的な施策を視覚化してまとめたものになります。図の下部にある「推進のキーワード」は、新たに加える内容に下線を付けてあります。先ほどご紹介した内容以外にも新しい取組内容も示してありますので、ご覧く

ださい。

以上で、来年度の武豊町学校教育の指針についてのポイントの説明とさせていただきます。今後これらの指針・重点施策を学校に示し、各校の教育課程に盛り込んでまいります。令和2年度も武豊町の教育活動が充実したものとなるよう、本日示した指針等につきまして、様々な視点からご意見がいただけるとありがたいです。よろしくお願いします。

(町 長) ただいまの説明に関しまして、ご意見・ご質問がありましたら、発言をお願いします。

(企画部長) 先ほどの説明の中で、総合計画の話が出てまいりましたので、総合計画の改訂に向けて進めている内容につきまして少し説明をさせていただきます。総合計画というのは、町の最上位計画であります。現在の第5次武豊町総合計画の計画期間が、平成20年度から令和2年度となっており、来年度をもって終了となります。新たな第6次武豊町総合計画につきましては、平成30年度から3か年かけて策定作業を進めているところです。策定にあたりましては、アンケート調査やグループヒアリング、地区別懇談会やまちづくり会議などを開催し、多くの町民の方からご意見を伺っております。

令和2年度は、みなさまからいただいたご意見を踏まえて、令和3年度から令和12年度の10年間を計画期間とした、まちづくりの指針となる総合計画を策定してまいります。策定にあたりましては、武豊町総合計画審議会を開催し、諮問を行いました。この審議会は、教育委員、各種団体の代表者、知識経験を有する方、公募により選定された方など、総勢25名で構成をされております。

令和2年度は、この審議会を4回開催する予定でいます。その間にパブリックコメントも実施をして、審議会の答申を受けることで、第6次武豊町総合計画の策定をしていきたいと考えております。ご協力いただきますよう、よろしくおねがいします。

(町 長) 令和2年度に4回審議会を開催して策定し、令和3年度から計画がスタートするということでしょうか。

(企画部長) その通りです。

(町 長) ありがとうございます。情報を提供していただきました。その他ございますか。

(教育部長) 令和2年度の学校教育の指針の中に示されている学校教育の目標は、第5次武豊町総合計画の将来像を取り入れておりますが、第6次武豊町総合計画の将来像などはどのように決定されていくのでしょうか。

(企画部長) 審議会に将来像のテーマ案を挙げさせていただき、様々なご意見を集約する中で決定をしていきたいと考えております。

(教育部長) それでは、令和2年度の学校教育指針では、第5次武豊町総合計画の将来像をもとにして実施をし、令和3年度の学校教育指針から、第6次武豊町総合計画の将来像を取り入れていくとが可能だということですね。

(企画部長) はい。

(町 長) その他はよろしいでしょうか。それでは、次の協議に移ります。

『G I G Aスクール構想』による I C T教育の充実について、事務局からの説明をお願いします。

(指導主事) 失礼します。今年度末に文部科学省より示されたG I G Aスクール構想に伴い、資料にある「G I G Aスクール構想の実現」に向けて、学校の I C T環境整備に取り組んでいます。今回の構想では、「通信ネットワーク」「一人一台端末」「クラウド（学習記録の蓄積）」が1セットになった環境整備であり、教室で子ども40人が自分の端末で、回線に負担なく、NHKの動画を見たり、インターネットやデジタル教科書で学習できたりする環境を整えるということです。一人一台端末を持つことで、今まで班やグループなど複数の児童で、スクラッチなどのプログラミング言語を活用した学習を行っていたものが、一人でじっくりとプログラミング的思考を養うことができます。また、その学習の過程をクラウドとして個人フォルダに保存し、友達と共有することができます。さらに、継続的な学習の記録や蓄積が可能となり、テストなど成績処理にも活用ができます。

プログラミング教育の実践に向けた教員の研修も、一昨年度から行っています。すでに小学校では、今年度から主に算数科において、正三角形を求める作図の仕方について、論理的思考を伸ばすプログラミング教育が実践されています。今後は、G I G Aスクール構想の環境整備に合わせて、一人一台端末の効果的な活用方法や指導方法、教材開発や評価方法など、教員が有効にこれらの I C T機器、 I C T環境を活用できるように研修を進めて参ります。

今後の I C T環境の充実およびG I G Aスクール構想の具現化に向けてご意見がいただければと思います。よろしくお願いいたします。

(町 長) ありがとうございます。それでは、協議に入りたいと思います。ただいまの説明について、ご意見・ご質問がありましたら、発言をお願いします。

(教育委員) 今回のG I G Aスクールの取組は、児童生徒にタブレットを一人一台割り当てて、教員が指導することができる環境を作ればよいと単純に考えていましたが、本日予算が出されている中で、その指導が効率的に運営できるような校内L A Nの整備なども必要であることが分かりました。仕組みを作ることの重要性を感じました。

これらの取組は、国からの補助なども合わせながら行っていくものであると思いますが、場合によっては、町の踏み込んだ取組が求められることもあるかもしれませんので、その際には、積極的な支援をしていただけるとありがたいです。

(総務部長) 予算のお話がありましたので、私からは予算についてご説明させていただきます。この3月議会におきまして、令和元年の補正予算として、小学校で9, 100万円ほど、中学校で4, 800万円ほど、合わせて1億3千900万円ほどの予算を計上させていただいております。この予算は、先ほど委員がお話しされたように、通信のための校内L A Nの整備であるとか、コンピュータを収納しておく電源キャビネット設置のためのものです。これらは、国から示されておりますロードマップに従って進めているものになりますが、 I C T機器を導入する前に、それらの機器を

効率的に使用するために、先んじて動作環境を整えるものとして予算計上をしております。今後は、国の補助制度を活用し、所管課である学校教育課からも最新の情報を集めながら、環境整備を進めてまいりたいと思います。

町長、教育長とも話を進めていく中で、このGIGAスクール構想は確実に進めていくものであるとの言葉をいただいておりますので、計画的に予算の確保を行っていきます。

(町 長) 国の計画に基づいて様々な準備を行っていきますが、補助制度なども有効に活用しながら、遅れないように整備を進めていただきたいと思います。

(教育委員) パソコンなどの機器についての償却というのは、だいたい何年くらいで見積もっているのでしょうか。

(総務部長) 基本的には5年が目安になるのではないかと思います。その中では、これらの機器を買い取りにするべきか、リースにするべきかという議論も出てくるかと思います。それぞれメリット・デメリットがありますので、適切に判断していきたいと考えております。

(教育委員) GIGAスクール構想という言葉が最近新聞やメディアなどで目にするようになってきたのですが、環境や機器の整備についてはイメージができましたが、学校現場でどのように指導していくのかという点になるとなかなかイメージがしにくいところがあります。一人一台のパソコンが整備されたとして、破損した場合の対応などはどのようにしていくのか、また、どのように効果的に使用するのかといったことについて、分かっていることがあれば教えてください。

(指導主事) リースか買い取りかで対応が変わってきますが、破損に対しては適切に対応をしていきたいと考えています。基本的には、端末は学校で保管をする形になると思いますが、ゆくゆくは、その端末を利用して家庭での学習に使用するなどの活用方法もあると思います。まだ、その段階までは進んでいませんが、現段階では、学校に設置される電源キャビネットで保管をして使用していく形になると思います。

ただ、学習形態においても、効果的な使用をするためには、タブレット端末だけでは不十分であるので、大型の提示装置であるとか、それらをつなぐソフトウェアなどの整備も必要であると思います。先進地区などからも学びながら、子どもたちによりよいものを提供していきたいと考えています。

(教育長) 指導方法など、確かに不透明な部分が多くあります。教育長の会などでも話があったのが、まずは導入して慣れることから始めるのがよいということでした。最初からすべてのものを取り入れて進めようとする、うまく使いこなせずに失敗することが多いという話もありますので、最低限度必要なところからしっかりと整備をして、児童生徒も教師も使いこなせるようになってから、さらに整備を進めていくというのが成功の秘訣であると考えています。

(教育委員) 学校での教育の方法が変わっていく中では、それに伴って家庭での教育の方法も変わっていかざるを得ないと思います。そういったことも連携を図りながら進めていただけるとよいと思います。

(町 長) 機器の使い方やスキルの部分は、教師よりも子どもたちの方がむしろ長けているようにも思います。そういったスキルを使って、どのような指導に生かしていけるのかといった部分については何かありますでしょうか。

(指導主事) 実際に本町の教育現場で、タブレットを児童生徒一人に一台持たせて授業を行うといった経験がないのが実情です。その中で、いきなり一人一台のタブレットを手にしても、どのように生かせるのかが分からないためあまり広がらないということはあると思います。そこで、まずやってみるということが重要ではないかと考えます。少しずつ効果的な使用方法が分かってくると、教師も創造的に授業を組み立てることができるようになったり、児童生徒からもアイデアが出されるようになったりして、授業でやれることの幅が広がるということはあると思います。

先日視察した岡崎の先進地区では、教員がこんなことをやりたい、やらせてみたいというアプリが簡単にコンピュータに入れられて、すぐ次の授業で使えるということを見せていただきました。教師の指導の幅が広がっていく可能性を感じることができました。こういった内容を研修などで広めていき、教師が少しずつ広めていく役割を担ってもらえるように進めていきたいと思っています。

(町 長) 最初の機器の導入は、小学校5年生、6年生、中学校1年生という話でしたか。

(教育長) はい。それがベースになっております。

(町 長) その中で、数年のうちに一人一台を持てるようにするというイメージをもっております。すぐに全員に一人一台ということではなく、段階を踏んで整備を進めていくということになるのではないのでしょうか。また、学校教育課でも議論を深めていただいて、整備を進めてください。

(町 長) それでは他によろしいでしょうか。

(教育委員) 情報化時代に先駆けて、LANの整備をしていただいたり、タブレット整備の計画を進めていただいたりと、先を見据えた形での環境整備を行っていただき、大変ありがたいと思います。ただ、情報となるとハードの面とソフトの面の整備をしていく必要があると思います。今後どのような問題が出てくるかわかりませんが、10年計画の中で、いろいろと考えていかなければならないと思います。例えば、情報の取り扱いの仕方であるとか、子どもゲーム依存などの問題など、コンピュータを取り扱うためのルールの教育についても考えながらやっていく必要があると思いました。

また、同時に先生方の働き方改革につながるようなものにしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

(指導主事) 現在も、環境整備などのハードの面だけでなく、情報モラル教育などのソフトの面も継続して指導しておりますが、今後、さらに指導を徹底することが必要になってくると考えます。

また、ICTの導入が進んでくると、テストの採点や評価などにICTを活用することで、速く正確な管理をすることが可能になります。それらが積み重なると、教員

の負担軽減にもつながり、働き方改革にもつながっていくと考えます。

ただし、これらの取組は始まったばかりで、ノウハウがあるものではないため、先進地区などの情報も適切に収集しながら、よりよい形での運用を行っていきたいと考えています。

(町 長) 情報の漏洩についても配慮が必要になってくると思いますので、よろしくお願いします。その他はよろしいでしょうか。

ありがとうございました。『GIGAスクール構想』によるICT教育の充実について」の協議は、以上で終了とします。いろいろなご意見を頂戴しましたので、ご意見の内容を盛り込みながら、来年度からの環境整備 および 指導の充実 に向けての準備を進めていただきますよう、よろしくお願いします。

(町 長) 本日、予定された協議事項は以上ですが、事務局、その他の協議事項はありますか。

(指導主事) ありません。

(町 長) 以上で、議事は終了しました。それでは、事務局にお返しします。

5. 意見交換

(教育部長) 初山町長、ありがとうございました。

それでは、ここで意見交換の時間をとりたいと思います。本日の協議内容以外で結構ですので、ご意見のある方はご発言ください。

(町 長) 令和2年度の予算大綱を発表しました。その中で、教育に関わる部分を紹介させていただきます。まず、学校教育課の関係では、教育相談員、スクールアシスタント、生活支援員、特別支援員等の人的配置は例年通り行っています。その中で、養護教諭サポーターを緑丘小学校に1名新たに配置をいたします。これは、これまで配置のために設定されていた児童数の上限を緩和し、700名以上の学校に配置することとしました。

また、各学校からの要望についても、優先順位のもと対応をしております。令和2年度は、武豊小学校は西館校舎の外壁および防水の改修を予定しています。衣浦小学校は北館校舎屋上の防水改修、職員室の空調設備更新工事を予定しています。緑丘小学校は屋内運動場の屋根の防水改修、エレベーターの改修を行う予定です。武豊中学校は、屋内運動場の緞帳改善、運動場砂場のネット設置を行う予定です。

また、町民会館は、ロビー天井部分の耐震改修を行う予定です。令和3年度に輝きホール、令和4年度に響きホールの改修を予定しています。

さらに、防犯カメラの増設を行います。これまでは53基設置がされておりましたが、新たに小・中・高校生の登下校が多い場所を中心として、防犯カメラを14基、設置を予定いたしております。また、全国的に交差点での事故が指摘されておりますので、ガードパイプのない信号交差点の改修工事も予定しております。より安全な登下校ができるように配慮していきます。

屋内温水プールは、令和4年4月の供用開始を予定しており、そのための予算を計上させていただいております。

(教育委員) 自分も仕事柄、人事に関わることが多く、優秀な人材を採用していくことの有用性とその大変さを実感しているところです。今回の学校教育の指針にスクールソーシャルワーカーの内容がありました。今回、スクールソーシャルワーカーの募集が広報にも挙げられていましたが、優秀な人材を採用しようとしても、任期が限られているとなかなかその人材が集めにくいというのが正直な感想です。スクールソーシャルワーカーの仕事は学校の内外の人や組織といかに信頼関係を築けるかということが重要です。また、困っている子どもやその保護者の本心を引き出し、適切な支援をしていくことも重要であり、短い期間の中では難しいことが出てくると思います。半面、専門職として長期採用する難しさも感じるが、長い目で見て、より良い人材を核にして支援体制を築いていくためには、専門職なり、正規職員として採用していくことも視野に入れていただけるとよいのではないかと思います。優秀な人材をしっかりと確保していくことも検討していただけるとありがたいです。

(企画部長) 今回のスクールソーシャルワーカーの採用につきましては、会計年度任用職員に移行する中で、非常勤としてではなく、任期付きではありますが正規採用の職員として考えております。その中で、優秀な人材確保を考えてまいりたいと思いますが、いただいたご意見も参考にしながら、今後もより良い人事配置を考えてまいりたいと思います。

(教育委員) 第6次の武豊町総合計画は、武豊町の子どもたちが将来の武豊町の町づくりにやる気と勇気をもって取り組むことができる計画にしていきたいと思います。町民の潜在的な希望や欲求を新しいサービスに変えるために、しっかりと議論していただき、町民に新しい価値観を提供していただきたいと思います。そのためには、創造的な計画を策定していただけるとありがたいです。

武豊火力発電所が新しい施設を建設しており、知多南部広域環境センターの建設も予定されています。武豊町の子どもたちが、これらの施設を、胸を張って誇れるものにしてほしいと思います。

(教育部長) たくさんのご意見ありがとうございました。今後の参考にさせていただきますのでよろしくお願いします。

6. その他

(教育部長) それでは、その他について、事務局お願いします。

(指導主事) 会の始めにもありましたが、本日の協議については、議事録を作成し、ホームページにて公表させていただきますので、ご承知おきください。また、来年度の第1回の総合教育会議につきましては、現在のところ9月17日（木）を予定しています。連絡は以上です。よろしくお願いします。

(教育部長) その他、みなさまから何かございますか。

(教育部長) ありがとうございました。これをもちまして、令和元年度第2回武豊町総合教育会議を終了させていただきます。長時間にわたり、ありがとうございました。